

平成24年2月
袋井市議会定例会
一般質問通告内容

袋井市議会

＝本会議インターネット放映のお知らせ＝

本会議の様子が、自宅のパソコンで見ることができます。
袋井市のホームページに接続し、袋井市議会のコンテンツの中に「袋井市議会のインターネット中継」があります。ホームページアドレスは、次のとおりです。

袋井市 <http://www.city.fukuroi.shizuoka.jp>

袋井市議会（インターネット中継）

<http://dvlsv.city.fukuroi.shizuoka.jp/view/2.html>

●傍聴者の皆様へ：携帯電話はマナーモードに切り替えをお願いします。

一般質問通告議員

2月28日(火)

【午前質問予定の議員】

ページ

1番 寺井紗知子議員 …… 1

2番 寺井雄二議員 …… 2

3番 大場正昭議員 …… 3

【午後質問予定の議員】

4番 大庭通嘉議員 …… 5

5番 廣岡英一議員 …… 6

6番 山田貴子議員 …… 7

2月29日(水)

【午前質問予定の議員】

7番 浅田二郎議員 …… 8

8番 高橋美博議員 …… 9

9番 寺田守議員 …… 10

【午後質問予定の議員】

10番 竹原和義議員 …… 11

11番 村松尚議員 …… 12

12番 兼子春治議員 …… 13

3月1日(木)

【午前質問予定の議員】

13番 高木清隆議員 …… 14

質問順序	1	議席番号	22	質問者	寺井紗知子
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
1 袋井駅南地区の土地利用 <ul style="list-style-type: none"> (1) 将来のまちの姿をどのように描かれているか伺う。 (2) 総合的な治水対策についての望ましいあり方は。 (3) 高南地区から駅へのアクセス道路の整備計画 					
2 防災 <ul style="list-style-type: none"> (1) 阪神・淡路大震災の教訓をもっと学ぶべきと考えるが。 (2) 語り部の招聘はいかがか。 					
3 Webの充実について <ul style="list-style-type: none"> (1) ホームページによる情報発信の充実を。 (2) 広報ふくろいの電子化の検討はどうか。 					

質問順序	2	議席番号	7	質問者	寺井雄二
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 津波対策について</p> <p>浅羽地域における津波対策として、国道150号バイパスの早期路線決定をするために隣接市と多重防御を協議する必要がある。</p> <p>(1) 浅羽地域の津波に対する安全を推進するためには、国道150号バイパスの早期路線決定をされる必要があるが、現在磐田・掛川・県との話し合いはどうか。</p> <p>(2) 津波対策として国道150号バイパスまたは湊中新田浜道線を第二防潮堤を兼ねさせ、かさ上げして検討すべきと思うが。</p> <p>(3) バイパスについて津波対策多重防御とし、掛川市と協議し、県に対して要望をすべきと思うが。</p>					
<p>2 防犯対策について</p> <p>犯罪を抑止するためには防犯灯は必要である。</p> <p>(1) 現在防犯灯は各自治会において危険箇所に設置をされ、また、自治会間においては市で設置をされている。現在の防犯灯は蛍光灯が主体であるが、地球温暖化に対し二酸化炭素削減のためにLED灯にすべきであると思うが。</p> <p>(2) 学校周辺における防犯灯は子供たちの安全を考慮し、当局でLED灯に変更をしていく考えはあるのか。</p> <p>(3) 学校周辺について自治会任せで防犯灯が設置されているが、学校サイドでは現在の設置でよいのか伺う。</p>					
<p>3 消防署改修について</p> <p>消防署はすでに老朽化しており、袋井市の防災の拠点である。いつでも災害対応ができる基地づくりが必要である。</p> <p>(1) 現在の消防署は人員数からいっても手狭であり、早急に改修なり移転を考えるべきではないか。</p> <p>(2) 移転先を早急に検討し確保しておくことが必要と思うが、現在検討をされているのか伺う。</p>					
<p>4 地産地消について</p> <p>学校給食に地産地消を計画的に取り入れることは、農業振興から大切なことである。</p> <p>(1) 学校給食材について現在地産地消を推進するだけの食材があるのか。</p> <p>(2) 地産地消を推進するためには各種生産者と作付協定を結ぶことが安定供給につながるが、農協等との関係はどのようになっているのか。</p> <p>(3) 袋井市としての取り組みはどのようになっているのか。</p>					

質問順序	3	議席番号	10	質問者	大場正昭
------	---	------	----	-----	------

質問事項・要旨（具体的な質問事項）

1 予算編成方針について

予算案が発表された。平成24年度一般会計当初予算は、298億1000万円であり、前年度比1.5%増となった。大震災以降、国の予算編成の大幅なおくれ、「新たな財源確保と歳出の抑制」が続いている。大変な中での予算編成であったと思うが、次世代に夢の広がる予算内容、執行をお願いしたい。

(1) 平成24年度施政方針と予算編成について

ア 地方行政は「行政管理」から「行政経営」への転換期を迎え、戦略的な自治体経営が必要である。そのような中、平成24年度当初予算編成において、特に留意した点と、予算の特徴は何か。我が国の編成方針をどうとらえ、我が市の予算へ反映しているのか。当市の予算規模についての評価はどうか。

イ 今日、行政の効率的な経営、自治体の競争力の強化も叫ばれている。当初予算を取り巻く経済状況を、どのように認識しているのか。予算に原田市長の公約が、どのように反映しているのか伺う。また、今回の予算編成の中での重点施策は何か。

ウ 新年度予算における、会派「自民ふくろい」の予算要望がどのように予算に組み込まれているのか。私ども会派要望は、市民が求める必要な政策の確実な実行のため、強くお願いしたものである。具体的に①新東名開通に対する将来計画の策定、②袋井宿開設四〇〇年記念準備事業に向けた事業の推進、③市営墓地公園関連の地元要望事項の推進などについてであります。それらに対する考え方はどうか。それぞれ、前向きにとらえていただきたい。

エ 今後も事業経費の節減、適正な規模への公共投資の見直しなども進めていただきたい。それら財政健全化に対する考え方、市債活用に関する方針はどうか。地方債残高への影響は。また、今後の公債費及び市債残高の推移等、財政計画との整合性はどうか。予算編成後の状況について、心配はないのか。

オ 我が市は、豊かな地域資源を持ち、地域特性を活かした市民との協働により、誇りの持てるまちにしなければならない。そして、個性と魅力あふれる地域運営を進め、新たな都市経営を推進していくべきである。昨年度に続き『市民と行政のパートナーシップの推進』をどのように展開し進めていくのか、原田市長の考えを伺う。

カ また、行政改革について、今後の展開・取り組みはどうか。総務部門から企画政策部門への移行は、どのような目的があるのか。

キ 施政方針の冒頭に、「平成24年度の市政運営に対する決意」とあるが、私ども議員も同様であるが、今期4年の最終年としての市長の思いはどうか。予算編成をどのような気持ちで編成され、進めていくのか。

2 行政経営戦略について

厳しい時代にあっても、市民が感じる満足度や真の豊かさを実現させるため、各種事業に取り組んでいかななくてはならない。「未来につなぐ確かな一歩」を6つの重点戦略で推進するとのことであるが、次世代に誇れるふるさとづくりに鋭意努めてほしい。

質問順序	3	議席番号	10	質問者	大場正昭
------	---	------	----	-----	------

質問事項・要旨（具体的な質問事項）

- (1) 「未来へおくる“安心・安全”」について
 - ア 近年、執行率が伸び悩んでいる感がある家庭内家具等固定推進事業、木造住宅耐震補強助成事業を来年度は強力に推進していくとのことであるが、具体的にどのように進めていくのか。それぞれの達成目標はどうか。
 - イ 幼・保育園の園児、小・中学校の児童生徒に対する防災教育の推進について、どのようにしていくのか。群馬大学の片田教授の教えをどう取り入れていくのか。
- (2) 「生涯にわたる“健康づくり”」について
 - ア 以前提案した市民大運動会的なものを実施されるようであるが、どのようなものとなるのか。それらのことが、家族で楽しむスポーツ推進とどうつながっていくのか。
- (3) 「きめ細やかな“子育て支援”」について
 - ア 子ども医療費助成事業の拡充はとてもありがたい。この事業に対する県からの補助金はどうか。今後も市として、独自の助成は考えているのか。
- (4) 「新たな活力を生み出す“産業創造”」について
 - ア 新東名の開通に伴う「森掛川インターチェンジ」を活用した新しい産業の展開や、6次産業等への新たな産業分野への支援をどのようにしていくのか。我が市の将来にとって、とても大事なことであるので伺う。新東名の利活用の可能性を研究するだけでは、乗り遅れてしまわないか。研究会を立ち上げ、チャレンジする事業者の支援などでは、今までと変わらないのではないか。

3 新たな課題について

- (1) 「自然の恵みを活かす“新エネルギー促進”」について
 - ア 新しいエネルギー対策について、市としての基本的な考え方はどうか。原発・環境への課題は何か。果たして、太陽光発電システム設置の補助額を引き上げただけで、普及が進むと考えているのだろうか伺いたい。
 - イ 具体的な項目の中で、新学校給食センターや高南小学校、東分庁舎、袋井北公民館の屋上などに太陽光発電システムを設置するとのことであるが、市内すべての小・中学校への設置を望むものである。公民館への設置も含め、今後の計画・方向性はどうか。
- (2) 「ともに支え合う地域づくり」について
 - ア 次代を担う若者の育成支援について、我が市において、20代、30代の若者支援施策にどのような動きがあるのか。また、市内の若者の市民活動やそれを支える団体、支援者などの現状をどのように把握しているのか。20代、30代の若者の地域づくりが「市民と行政のパートナーシップの推進」をしていく上で、とても重要なことである。
 - イ 国においても、「子ども・若者育成支援法」が制定され、各市町においても、条例を整備するなど、若者を支援する新しい仕組みを作る動きが出ている。市として、地域における若者の育成をどのように考えているのか、今後どのように進めていくのか伺う。

質問順序	4	議席番号	21	質問者	大庭通嘉
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 施政方針について</p> <p>(1) 「現市民病院」について 中東遠総合医療センター開院を1年前にして、聖隷福祉事業団との協議に向け新年度は予算計上もされたが、現市民病院の利活用を具体的にどのように推進するか。 ア 健康指導・支援センターの具体的事業は。また、現保健センター等、公共施設の今後の利用方針は。 イ 外来検診センターの規模、運営方針は。 ウ 現市民病院の利用率と、使わない施設の後は。 エ 現市民病院の施設改修費の総費用は。 オ 補助算出根拠とセンターのランニングコストは。 カ 現市民病院にどのような団体／機関を入れるのか。 キ センターの名称決定と統括責任者の選任は。 ク 医療にかかる経費（総額9億円）に変更はないか。</p> <p>(2) 「全国育樹祭」について 皇族殿下をお招きし、全国育樹祭が開催されるが、市でもこれを生かした事業展開をしてはどうか。 ア 育樹祭を生かした本市の事業展開の考え方は。 イ 「エコパ花の郷事業」の支援検討してはどうか。 ウ グリーンウェーブや市内銘木の啓発・PRを。</p> <p>(3) 「6次産業」について 6次産業を本格化させると言うが市は何を考えているか。 ア 6次産業の実施主体と具体的事業は。</p>					
<p>2 河川愛護について</p> <p>河川愛護活動の支援のあり方を見直すべきではないか。</p> <p>(1) 掛川、磐田との比較実態をどう認識しているか。 (2) 機械装備を磐田市並みに充実すべきではないか。 (3) パートナー事業は50：50を基本に支援検討を。 (4) 地域負担の増大をどう認識しているか。 (5) 安全対策（事故軽減指導&保険）の充実強化を。 (6) 要綱整備等、河川愛護のルール化の検討を。</p>					
<p>3 商業店舗進出について</p> <p>川井地先に進出する商業施設の周辺交通対策は。</p> <p>(1) ドン・キホーテ進出の交通対策と行政指導は。 (2) 川井徳光線、川井34号線他周辺道路の改良をすべき。</p>					

質問順序	5	議席番号	3	質問者	廣岡英一
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 海浜公園等整備事業について</p> <p>合併後、7年間に過ぎようとしている。新市建設計画の主要事業である海浜公園等整備は「後期基本計画で進める」とされてきたが、残余期間は3年間になった。平成23年度は50万円の構想策定検討委託料を予算化したが無執行の気配はない。平成24年度は予算計上もないが、合併時の約束事といえる本事業への取り組み姿勢を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成23年度予算が無執行されていない理由は。 (2) 松枯れ、臭気、荒廃農地への現状認識は。 (3) 磐田市との協調・連携は。 (4) 防災対策も海浜公園構想に含まれるのではないかと。 (5) 平成22年2月に提出した「趣意書」はどのように扱われているか。 (6) 残余期間が少なくなった中で、何を思索し、どう対処するのか。 					
<p>2 6次産業化について</p> <p>通称「6次産業化法」は、平成22年秋に可決し、平成23年3月に農林水産省より施行された。以来、各地で事業化が進んでいる。本市も平成23年度から取り組んでいるが、商品開発だけでは地域ビジネスや新産業創出には届かない。国の支援制度等を活用した本市の6次産業ビジョン、実現に向けた政策・戦略を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 6次産業化支援と農工商等連携支援との違いは。 (2) 補助率2分の1、上限50万円を実施している6次産業化促進事業の成果予測と課題は。 (3) 特産品等開発事業、地域産業イノベーション事業など関連事業との連携は。 (4) 売れるモノづくりには何が大事か。国の支援制度をどうコーディネートするのか。 (5) 袋井ブランドの構築が不可欠ではないかと。 (6) 6次産業に描いているビジョン、実現に向けた政策・戦略は。 					

質問順序	6	議席番号	5	質問者	山田貴子
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
1 防災対応その1					
<p>防災弱者に対応するためには、女性のきめ細かな力を活用し、老人・子供たちに対し、安心した避難所対応が求められる。</p> <p>(1) 袋井市として、自主防災組織に女性を加えた組織づくりが必要と思うので伺います。</p> <p>(2) 地域防災指導員に袋井市独自の女性防災指導員の枠を設け、災害時に要援護者支援や避難所運営にあたり、やさしい対応ができると思うので伺います。</p>					
2 防災対応その2					
<p>津波対策で避難タワーや避難ビルまた平成の命山を計画されています。市民に素早く分かるような海拔表示板や避難方向表示板等を早急に設置すべきだ。</p> <p>(1) 6月議会に提出された海拔表示板と、避難場所などの方向を示した表示板を早急に設置するとのことでしたが、現在までの進捗状況はどうか。</p>					
3 障がい者（聴覚障がい者等）対応					
<p>障がい者にやさしい対応ができる病院を目指すためには、安心した接遇診療を求められる。</p> <p>(1) 現在袋井市民病院においては、聴覚障がいの患者に対して接遇等についてどのように対応されているか伺います。</p> <p>(2) 安心して診療に向き合うために、障がい者に対応できる職員を常時配置すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 中東遠総合医療センターでは、障がい者にやさしい配慮を考えているものと思うが、どのように検討されているか伺います。</p>					
4 東京交流会について					
<p>「人と人とのつながり」を深め、ネットワークを広げていくことの大切さから、本市と縁のある方々と東京を会場に交流の場を設け開催されました。</p> <p>(1) 今回の結果について参加者の反応は、どのように検討されているか伺います。</p> <p>(2) 交流会は、袋井市にとってどのようなメリットがあったか伺います。</p> <p>(3) 継続事業とされていますが、今後の参加者についてどのように人選されるのかお伺いします。また、あわせて時期についても伺います。</p>					

質問順序	7	議席番号	17	質問者	浅田二郎
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 津波避難場所の確保について</p> <p>津波避難困難地域の解消についての基本的考え方に基づく津波避難施設の建設は急務である。その対策としての『太田川しゅんせつ土を利用した人工の山』建設が、適切であるか疑問がある。</p> <p>(1) 津波避難困難地域のすべての居住者が500メートル以内に避難場所を確保することが基本。</p> <p>(2) 市が建設する津波避難施設は急ぐことが必要。</p> <p>(3) 『太田川しゅんせつ土を利用した人工の山』は、津波対策上構造的に適切か。</p> <p>(4) 『太田川しゅんせつ土を利用した人工の山』は、極端な面積（広さ）が必要ではないか。</p> <p>(5) 『太田川しゅんせつ土を利用した人工の山』は、適切な位置が確保できるのか。</p> <p>(6) 『太田川しゅんせつ土を利用した人工の山』は、土地利用上問題はないか。</p>					
<p>2 高齢者肺炎球菌ワクチン接種の公費助成について</p> <p>肺炎による死亡者の95%以上が高齢者…肺炎球菌ワクチン接種で、肺炎を抑えることが高齢者の健康、医療費の削減にとって有効。公費助成が必要である。</p> <p>(1) 市の接種率は低すぎる。</p> <p>(2) 県内半数以上の自治体が助成制度を実施している。</p> <p>(3) 財政は大きな問題とはならない。</p>					
<p>3 （仮称）山梨分遣所の建設について</p> <p>市北部地域に必要な消防・救急関連施設としての（仮称）山梨分遣所建設の場所に関して、近隣住民から見直しの要望が出てきた。</p> <p>(1) 建設への進捗状況はどうか。</p> <p>(2) 近隣住民からの要望にどう答えてきたのか。</p> <p>(3) 経過の中にどんな問題があったのか。</p> <p>(4) 今後どのように対応していくのか。</p>					

質問順序	8	議席番号	18	質問者	高橋美博
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 税と社会保障の一体改革について</p> <p>政府民主党は「社会保障を維持・充実し、同時に財政健全化を達成する」として「税と社会保障の一体改革」を進めようとしているが、この問題についての市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 消費税増税について</p> <p>ア 社会保障充実のため必要との考えについて</p> <p>イ 財政再建のために必要との考えについて</p> <p>(2) 子ども・子育て新システムについて</p> <p>ア 制度の問題点をどう考えているか。</p> <p>イ 入所待機児童の見通しはどうか。</p> <p>ウ 民間保育所との連携はこれまでどおり保てるか。</p> <p>エ 市立保育所・幼稚園の整備計画に変更はあるか。</p> <p>(3) 介護保険について</p> <p>ア 介護報酬改定の影響はどうか。</p> <p>イ 特養待機者数と今後の動向はどうか。</p> <p>ウ 新たに創設された「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の実施の見通しはどうか。</p> <p>エ 生活援助サービスの短時間化の影響はどうか。</p> <p>(4) 国民健康保険について</p> <p>ア 国保制度の問題点をどう認識しているか。</p> <p>イ 国保運営「広域化」について見解と準備状況は。</p> <p>ウ 保険料が高すぎるとの認識はあるか。</p> <p>エ 一般会計からの繰入をふやすべきではないか。</p>					
<p>2 滞納整理対策について</p> <p>滞納整理が年々厳しくなっている。市民に向き合った対応がなされているか疑問に感じる。収納業務が適切になされているか伺う。</p> <p>(1) 行き過ぎた対応はないか。</p> <p>(2) 訪問・話し合いが基本であり生活実態の把握をしているか。</p> <p>(3) 滞納処分を機械的に行っていないか。</p> <p>(4) 手続きは適切に行われているか。</p> <p>(5) 差し押さえは事業継続・生活維持に配慮されているか。</p>					

質問順序	9	議席番号	6	質問者	寺田守
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 歴史的建造物の保存</p> <p>市内には、時代の特色を残した歴史的建造物がある。地域の資産として保存し、活用する方法について伺う。</p> <p>(1) 歴史的建造物を保存し、まちづくりに活かすことが重要と思うが、市長のご所見を伺いたい。</p> <p>(2) 市内にある建造物で、50年以上経過し、一定の価値ある歴史的建造物の調査について伺う。</p> <p>(3) 文化財として指定する建造物があった場合、追加していく用意があるか伺う。</p> <p>(4) 市内には、登録有形文化財として推薦できる建造物があるが、制度を利用した保存・活用について伺う。</p>					
<p>2 住環境の整備</p> <p>市内には良好な居住地域に指定されながら、良好な住環境の整備がおこなわれている地域がある。これら地域の整備方針、計画について伺う。</p> <p>(1) 久能地区区画整理事業など、区画整理計画があったが、途中で中止になった事業がある。完遂できなかった原因をどのように考えているか伺う。</p> <p>(2) 計画当時と現在では情勢も変わっていると思うが、今後どのように地区整備を進めようと考えているか伺う。</p> <p>(3) 地域で住環境の整備を進める意向があった場合、市としてどのような支援体制が取れるのか伺う。</p>					

質問順序	10	議席番号	2	質問者	竹原和義
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 「桜ライン311」里親制度について</p> <p>東日本大震災による巨大津波の到達点を桜の木でつなぎ、教訓を後世に伝えようというプロジェクトが、2011年11月6日、岩手県陸前高田市で動き出し、「桜ライン311」は過去に襲った津波の記憶がいつしか忘れ去られていたという反省が原点です。市内の津波到達点は、海岸から最長7キロメートルほど。到達点を結ぶ線上に10メートル間隔で桜の木を植えていく。その距離は約173キロメートル、1万7300本が必要とあります。</p> <p>(1) 「桜ライン311」プロジェクトに対する本市の対応を伺う。 (2) 鎮魂・希望「桜ライン311」里親制度の提案を伺う。</p>					
<p>2 資源ごみ・埋立ごみ収集について</p> <p>静岡市では不燃・粗大ごみを運び出すことが困難な「高齢者のみの世帯」「障害者のみの世帯」などを対象に屋内から運び出しをお手伝いし、日常生活の負担を軽減することを目的に「ふれあい収集」を行っています。</p> <p>(1) 本市での「高齢者のみの世帯」「障害者のみの世帯」は何世帯存在するのか伺う。 (2) 本市での「ふれあい収集」対応を伺う。 (3) 本市での(仮称)「ゴミ出しパスポート」の取り組みを伺う。</p>					
<p>3 本市のホームページにソーシャル プラグイン アナリティクスの設定</p> <p>インターネットの会員制交流サイト「フェイスブック」を活用した情報発信について学ぼうと1月19日、全国で初めて、市のホームページをフェイスブックに一元化した佐賀県武雄市の樋渡啓祐（ひわたしけいすけ）市長を招いた講演会が佐賀県庁で行われ、自治体や企業の広報担当者など約250人が参加とあります。</p> <p>(1) 行政のホームページに「フェイスブック」の登録を伺う。 (2) 庁内職員のグループと一般にも公開する2系列対応を伺う。 (3) 「フェイスブック」を活用した特産品販売の専門ページの開設を伺う。</p>					
<p>4 地域力の創造・地方の再生資源について</p> <p>総務省「地域力の創造・地方の再生」緑の分権改革とは、地域主権型社会を確立するためには、行財政制度のみならず、エネルギーや食料の供給構造をはじめとした個人の生活や地域の経済等における地域主権を目指すことが求められています。地域を地産地消・低炭素型に転換し、地域の自給力と創富力（富を生み出す力）を高める地域主権型社会の構築を実現しようとするものです。</p> <p>(1) 「緑の分権改革」を進めている先駆的な取り組みを行っている自治体について伺う。 (2) 低炭素社会を目指した地域づくりとして、農林水産省の電力「地産地消」を目指す。小水力発電の普及支援を伺う。 (3) 地域資源を活かした地域の活性化づくりを伺う。 (4) 総務省「地域力の創造・地方の再生」を提唱する緑の分権改革に取り組む事業について、本市での対応を伺う。</p>					

質問順序	1 1	議席番号	1	質問者	村 松 尚
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 TPP問題について</p> <p>環太平洋経済連携協定（TPP）交渉への参加に向けた事前協議に入る方向に進んでいる。</p> <p>(1) 国、県からの情報収集、関係資料などは市として集めているか。</p> <p>(2) TPP参加になれば痛みを受ける可能性がある職業について、どのように考えるか。</p> <p>(3) 国、県に情報として共有できるものがあるか。また、そのような考えはあるでしょうか。</p> <p>(4) TPP参加の進捗状況を横目で見ても、我が市の農業政策を考える必要があると思うがどのようにとらえているか。</p>					
<p>2 市税の徴収、納付について</p> <p>公平に課税されて公平に納付されているか。また、徴収方法に問題はないか。</p> <p>(1) 個人住民税の給与からの特別徴収はどのように推進しているか。</p> <p>(2) 耐震補強工事にかかる固定資産税の減額措置の状況はどうか。</p> <p>(3) 地目変更申請漏れに対する固定資産税の課税はどのようになっているか。</p>					

質問順序	1 2	議席番号	9	質問者	兼子春治
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
1 新東名開通への対応について					
<p>新東名高速道路が4月14日に開通する。隣接には、森掛川インターチェンジ、遠州森町パーキングエリアが設置される。また、三川地区は、浜松浜北インターチェンジから至近距離にある。新東名は、袋井市の発展に大きな影響を与え、自治体間競争の真価を問われるものである。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 本市として、新東名の開通をどのようにとらえているか。また、どのようにまちづくりに生かすか。 (2) 県の新東名沿線特区構想及び内陸型フロンティア開発にどのように対応するか。 (3) 磐田市のスマートインターチェンジ設置の表明をどのように受け止めたか。 (4) 「森掛川インターチェンジ周辺基本構想」のように、秩序だった開発を行うため、本市としても北東部及び三川地区の土地利用基本構想を作成すべきと思われるがどうか。 (5) 新東名を本市に生かすため、中村大日線を北に延ばすべき。 (6) 本市の工業団地計画を見直すべきでは。 (7) 遠州森町パーキングエリアが設置され、地場産品を販売すると言われているが、市としての取り組みは。 (8) 新年度予算の「新東名利用調査事業」は、どのような調査を行うのか。 					
2 縁のある自治体との交流について					
<p>東海地震・三連動地震の危機が叫ばれている今日、縁のある市町村との交流をしたら。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 災害応援協定を締結したら。 釜石市、長野市、玉城町、木島平村、大垣市 (2) 機運の高まりを見て、友好都市の締結をしたら。 					
3 河川の整備方法について					
<p>排水機能だけでなく、多機能型の河川整備を。</p>					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 親水性を持たせた河川整備 (2) 環境に優しい生物の住める河川づくり (3) 防火用水、農業用水取水機能を持たせた河川整備 					

質問順序	1 3	議席番号	1 4	質問者	高木清隆
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					
<p>1 地域福祉政策について</p> <p>本来、家庭が持っていた扶助能力、福祉能力の低下は、家庭の役割を地域社会に求めざるを得ない状況下においては、地域社会の生活環境を考慮した福祉のまちづくりが必要。</p> <p>(1) 今後の福祉財源のあり方について、どう考えているのか。</p> <p>(2) 福祉の心を育てる運動展開の成果はどうか。</p> <p>(3) 地域社会を構成している諸要因を総合的に考えて、地域社会の生活環境までを含めての地域福祉推進計画を進めていく必要があると考えるがどうか。</p>					
<p>2 狭域交流型社会づくりに向けて</p> <p>大都市圏の直接的影響を受けない、自立した地方中小都市圏の活性化が図られる、新しい都市政策が必要。</p> <p>(1) 交流化社会へ向けた地域の対応の必要性をどうとらえているのか。</p> <p>(2) 圏域内の特性を最大限活かすためには、痛み分けの精神が必要と考えるがどうか。</p> <p>(3) 新たな地域の知恵比への時代においては、行政として、地域のオーガナイザーとして、企画・立案・演出能力が求められると考えるがどうか。</p> <p>(4) (仮称)中東遠自立都市圏推進協議会の設立を提案するがどうか。</p>					
<p>3 地域間交流による地域資源の活性化に向けて</p> <p>地域資源の活性化に向けた戦略的手法として、様々なつながりを基軸とした民間レベルの草の根交流を活用する上では、行政の後押しが必要。</p> <p>(1) 姉妹都市・友好都市の交流の輪を広げる考えはあるか。</p> <p>(2) 市民が取り組んでいる草の根交流の実態を、どれくらい把握しているのか。</p> <p>(3) 市民が草の根交流に取り組んでいる相手先と、一定の条件の下、姉妹都市・友好都市に続く、交流都市として認定する考えはあるか。</p>					
<p>4 パートナーシップの推進と地域コミュニティの再構築について</p> <p>新たなパートナーシップに取り組む上では、行政内部におけるしっかりとした位置づけが必要。そのためには、既存のコミュニティの枠組みを活かしながら、コミュニティ組織の再構築を図ってから進めるべき。</p> <p>(1) 地域コミュニティは、どのような役割を担うのか。行政として期待するものは何か。その先の地域コミュニティの将来像をどう描いているのか。</p> <p>(2) 新たなパートナーシップをもとに、新たなまちづくり・人づくりに取り組む上で、その政策目的が行政内部において、どのように位置づけされているのか。</p> <p>(3) 自治会組織という地域コミュニティの組織を活かしながら、地域の現状に沿った組織の再構築が必要と考えるが。</p>					

